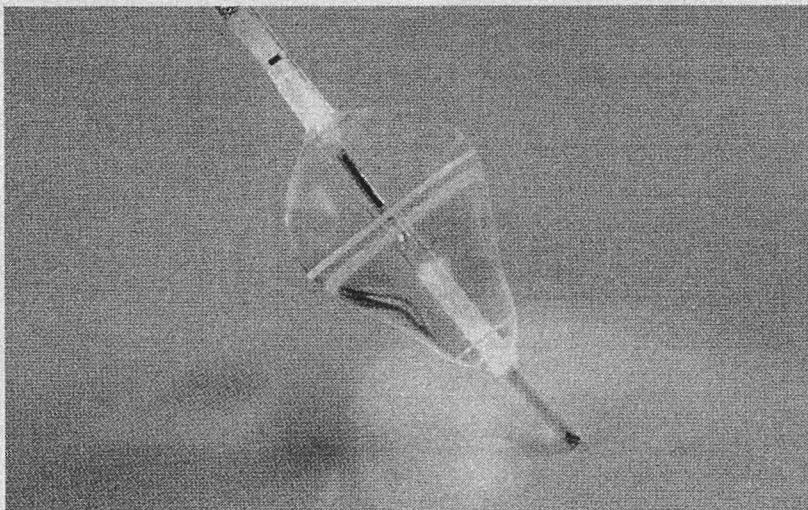


心房細動にアブレーション治療

内視鏡の先端に装着した風船で病変部位を焼灼する



不整脈の一つである心房細動は、脳梗塞の約3割を占める心原性脳梗塞症を引き起こすとされており、高齢化に伴い年々増加傾向にある。

心房細動の治療強化へ、2016年6月からカテーテルアブレーショング（心筋焼灼術）を開始。同年9月には、レントゲン透視を使用せずにカテーテルを表示する3次元マッピングシステム（CATTO UNIVU）を道内で初導入するなど、患者の負担軽減に取り組んでいる。

4月からは、発作性心房細動を対象に、宮本憲次郎副院長・不整脈治療センター長のもと、従来のアブレーション治療を

白石区の札幌白石記念病院（野中雅理事長、宮田節也院長・103床）は、心房細動の最新治療法である「内視鏡下レーザーバルーンアブレーション」を開始した。内視鏡で直接、心臓の中を見ながらレーザー焼灼できるため、低侵襲であり安全性が高いのが特徴だ。

進化させた内視鏡下レーザーバルーンアブレーションを開始した。

目視でレーザー焼灼

札幌白石記念

前者2つは、風船全体でエネルギーを放出するため、周辺組織にダメージを与えやすく、治療部位を細かく定めるのが難しい。これに対して最新